

# 古事類苑

## 人部十六

### 仁 度量

仁ハメグムト云ヒ、又イタムト云フ、即チ慈愛惻隱ノ心ヲ謂フナリ、此篇ニハ仁ノ解説及ビ其事蹟ヲ收載ス、

度量ハ寛大ニシテ能ク衆ヲ容ル、ヲ謂フ、而シテ人ノ過誤ヲ咎メズ、舊惡ヲ念ハズ又己ノ害セントスル者ヲ宥免スルガ如キ、亦此ニ屬セリ、

名稱

類聚名義抄人

メ○ク○ム○

ムツマシ

〔段注說文解字人〕仁親也、見部曰、親者密至也、从人二意相存、問之言、大射儀揖以耦、注言以者、耦之事、成於此意、相二人耦也、聘禮每曲揖、注以相三人耦爲敬也、公食大夫禮賓入三揖、注相人耦、詩匪風箋云、人偶能烹魚者、人偶能輔周道治民者、正義曰、人偶者、謂以人意尊偶之也、論語注人偶同位人偶之辭、禮注云、人偶相與爲禮儀皆同也、按人偶猶言爾我、親密之詞、獨則無耦、耦則無心也、謂仁人之心也、又曰、仁人之心也、謂仁乃人之所以爲心也、與中庸語意皆不同、如如鄰切、十二部、

〔釋名〕仁忍也、好生惡殺、善含忍也、

〔日本書紀綏靖〕神淳名川耳天皇、中綏靖、庶兄手研耳命行年已長、中立操厝懷、本乖仁義、

〔古今和歌集序〕あまねき御うつくしみのなみ、やしまのほかまでながれ、ひろきおほんめぐみのかげ、つくば山の麓よりも玄げくおはしまして、○下

〔倭訓栞前編三〕いつくしむ仁をよめり、痛く惜むの義成べし、人の全徳は仁愛の心にあり、萬葉